

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22 年 10 月 1 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	347020763
法人名	株式会社 ハーモニー
事業所名	グループホーム ハーモニー広島西
所在地	広島市佐伯区八幡東4丁目26-11 (電話) 082-926-4688
自己評価作成日	平成 22 年 9 月 17 日
評価結果市町受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島
所在地	広島市東区福田1丁目167番地
訪問調査日	平成 22 年 9 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

「優しい気持ち」と「ほほえみ」を理念として、入居者様と御家族に安心して生活していただけるよう日々工夫と努力をしています。毎食各ユニットで食事の準備を行っているので、調理中の音やにおいがして生活感があります。隣に小学校があり、子供たちの声が日常的に聞こえ、行事の際には立ち寄らせてもらったりしています。近くの川沿いが散歩道になっておりスーパーもあるので季節の良い時期は、散歩や買い物にも出かけます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

経営母体は高齢者医療と介護を専門にしている「ほほえみグループ」である。幹線道路からひと筋奥まった場所にあるので、車の往来が少ない。利用者は安全に買い物や散歩に出かけることができる。隣に小学校、裏手に川があり、静かで落ちついたいい環境にある。利用者は自分の家に居るように、ゆったりと穏やかに過ごしている。スタッフは利用者にやさしく接し、利用者本位のケアを行っている。ほほえみグループの認知症専門医による週1回の往診があり、グループの他施設も充実しており、利用者と家族を医療面でも支えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「いつもほほえみを」の理念に基づき、職員と管理者は日々の生活の中・ミーティングで入居者が安心して、笑顔で過ごしていただけるよう努力しています。	法人の共通理念「ほほえみ」を掲げている。理念は2階入口に掲げられ、また、ユニット毎の目標も、台所のよく目に付くところに貼ってある。	理念について、ミーティング時に話し合う機会をもったり、申し送り時や日々のケアの中でより深く意識づけがされる事を期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事への参加、保育園・小学生との交流、公民館ボランティアの受け入れなどを通じて交流しています	小学校が隣にあるので、運動会の見学・町探検のコースの1つ・ざくろのおすそ分けなどの交流がある。保育園に敷地内の畑を貸して、交流している。公民館から踊りや歌のボランティアに来てもらったり、散歩や買い物の中で地域の人々と話をしている。庭の柿を頂く事もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入居者さんとの外出、ほほえみ新聞の送付などを行っています		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では、ホームからの近況報告、外部評価や実地調査の報告を行っています。また、意見や要望のひきだしを行い検討して改善につなげています。	2か月に1回開催され、出席者は本人・家族・地主・地域包括支援センター職員・民生委員・スタッフである。ホームの現状報告や行事報告を行い、出席者からは自由な意見をもらいサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市区の実施する勉強会に参加したり、担当の地域包括の方と連絡をとることにより連携を取るよう心がけています。	区担当部門及び、地域包括支援センターとは連絡を取り合い、良好な関係を築いている。地域包括支援センターの呼び掛けで、地区のGHの勉強会を定期的に行い、参加GHの相互見学会等を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングでの指導や話し合いがあります。	新人研修で身体拘束に関する勉強をしており、スタッフ全員が理解している。ユニット間の扉は開放されているが、1階玄関の鍵は事故防止のため施錠している。家族には了解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	外部の研修などにより得た情報を職員間で共有できるようにしています。管理者は、個々の職員に気を配り話しをする機会を持つよう心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	資料などの回覧を行っています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図るよう心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者や家族等が意見、要望を表しやすいように部屋担当者を決めて、話しをする機会を設けるよう心がけています。	毎月スタッフによる手書きの手紙や写真を家族に送付している。手紙には、利用者の1か月の様子や体調等を記している。部屋担当を決め、意見や要望もいやすいよう配慮されている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事業所での定期的なミーティングや個別の意見として出た提案について、検討し反映できるよう心がけています	スタッフは月1回のミーティングや、管理者との個別面談等で意見を出す事ができる。スタッフの意見は管理者を通して運営者に届けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、週に1回事業所に立ち寄り事業所の状況を確認し職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握するよう努め、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく事を推進しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人との会話・行動の観察により、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	電話や面談により、ご家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	最初の相談時、施設などへの入居が必要な時期かどうか・「その時」必要としている支援はなにかについて検討し、他のサービス利用も含めた提案を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人が主体的に行動できるよう心がけ、職員他入居者と生活しているという感覚をもてるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	季節の変わり目の衣類の入れ替え・物の購入・受診の相談など電話により連絡し、一緒に考えたり、来ていただくようにしています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族・親戚・友人の訪問や一緒にの外出をしてもらえるよう心がけている。	友人の訪問があれば、落ちついてくつろげるよう心掛けており、一緒に外出される時も、食事内容や帰宅時間等に配慮し、関係が途切れぬよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	本人・家族からの要請があれば支援できるように努めます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向について把握するよう心がけています。	利用者や家族から「今困っている事」「どのようにしたいか」を聞き、思いや意向の把握に努めている。また、日頃の会話の中から利用者の思いを聞き出した時は、連絡ノートに書いて、全スタッフで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等についての情報を得たりご家族や本人との話しの中から把握できるよう心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を把握できるよう心がけています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、主治医・看護師と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成しています。	利用者や家族から思いや意向を聞き、関係者で話し合っ て介護計画を作成している。6か月毎の見直しの他、状態 の変化があった時も見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	実際の声かけと応答などを個別記録に記入し、連絡ノート・業務日誌などで職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	現状ではグループホームで可能なサービス以外に具体的なサービスは行っていません。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	安全で楽しく生活していただけるよう心がけています		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援しています。	毎週1回、認知症専門医、内科医による往診がある。利用者・家族の希望するかかりつけ医の受診も支援している。家族が付き添えない時は、スタッフが同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診診療所・併設施設の看護師に必要に応じて相談し、助言を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院必要時の主治医への相談や入院時には御家族を通して情報交換をおこなうよう心がけています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、グループ内事業所と共にチームで支援に取り組めるよう心がけていますが、今後より具体的にしていける必要がありそうです。	入居時に重度化、終末期における事業所側でできる対応を充分説明している。(母体医療機関との連携がとれること、グループ内他施設のバックアップ体制があること。)利用者・家族の意向も充分聞いて、利用者にとってよりよい支援ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修などにより身につけるようにしていますが、不十分な所もあります		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築くよう心がけています。	3月に避難訓練を実施し、避難経路や避難場所の確認を行った。8月には消防署であった訓練に、職員が参加した。非常時には近隣に住むスタッフが駆けつけられるよう連絡体制を整えている。	スプリンクラーの早期設置を期待する。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけに注意しています。記録などは他の人に見えないように気を付けています。	利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう、言葉かけに注意している。(特にトイレ等)個人の記録類は施錠できる棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	できる限り本人に聞いて自己決定できるよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	できるだけ希望に添えるよう、可能であればその日の業務を変更する事もあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類・化粧品については本人ができるように支援しています。本人の希望に合わせてパーマやカラーもされています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	できる方には包丁を使って食材を切っていただいたり、手で行える作業をしていただいています。利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしています。	利用者のリクエストを取り入れた献立を考え、利用者も一緒に毎日買い物に行き、調理している。できる人には調理の盛り付け、片付けもしてもらい、スタッフも一緒に同じ食事をしている。なるべく食材の種類を数多く使うよう、配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々に合わせた食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを行っています。拒否のある方にはうがいだけでもしていただけるよう声をかけています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを考え、尿量の多い方はトイレ誘導の回数を増やしたりしています。	排泄の記録をつけ、一人ひとりのパターンを把握し、声掛け誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	牛乳を飲んでいただいたりしているが食べ物での工夫はできていない。便秘になりやすいかたについて、毎日排便の有無を申し送るようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員の配置からリスク管理のため夜間の入浴は行っていません。日中の入浴で、一人での入浴が可能な方には希望を聞いています。	一人ひとりの能力に合わせて安全・快適に入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる人が多いが、週2回位は入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人の希望に合わせて、状況に応じて休息していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書を読んで副作用など理解するように努めています。変更時は伝達事項を伝え服薬後の変化について確認するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その人にあった役割や仕事をお願いするようにしています。掃除・買い物・食事の準備・洗濯物干したたみ・ゴミ捨て・体操・塗り絵・パズルなどを行っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気候の良い時期には散歩・食材の買い物へ出かけています。車が使用できるときにはドライブに出かけています。	毎日の買い物や散歩に出掛けたり、車で個人的な外出支援もしている。年に数回利用者全員でドライブに出掛けている。家族も一緒に利用者全員で動物園に行つて、好評を得た。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望される方には少額を所持していただいているが、ほとんど使用されていない状態です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	行える方には支援しています。理解できる方が少なく難しいです。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレの場所がわかりやすいように貼紙をしたり、毎月季節にあった壁の飾りをしています。調理の音や匂いがしています	広く明るいリビングでは、食事の支度を一緒にしたり洗濯物を干したり畳んだりできる。自分の家で過ごしているように生活の音や匂いがし、くつろげる空間である。壁には利用者が作った季節の飾りつけがされている。浴室・トイレ・廊下など清潔に保たれており、安全・快適に過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下に置いてあるソファやイスに一人で座ってゆっくりしていたり入居者さん同士で話していることがあります		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるように心がけていますが、おける物おけない物があるので配慮も必要です。	居室は、本人や家族と相談し、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるように心がけていますが、おける物おけない物があるので配慮も必要です。	利用者の使い慣れた物・好みの物を持ってきてもらい、写真や自筆の書やぬり絵などを壁に貼り、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。各部屋にはベランダがあり、部屋が明るい。また、布団を干すこともできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かせるように心がけている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

3 サービス評価の実施と活用状況

事業所の外部評価の実施と活用状況について振り返ります。
「目標達成プラン」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活用状況についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	① 運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="checkbox"/>	② 利用者へのサービス評価について説明した
		<input type="checkbox"/>	③ 利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④ 運営推進会議でサービス評価を説明するとともに、どのように評価機関を選択したかについて報告した
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他（ ）
2	自己評価の実施	<input type="checkbox"/>	① 自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	② 前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="checkbox"/>	③ 自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④ 評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他（ ）
3	外部評価（訪問調査当日）	<input type="radio"/>	① 普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	② 評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③ 対話から、事業所が努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="checkbox"/>	④ その他（ ）
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	<input type="radio"/>	① 運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="checkbox"/>	② 利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	③ 市町へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="checkbox"/>	④ 運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他（ ）
5	サービス評価の活用	<input type="checkbox"/>	① 職員全員で次のステップに向けた話し合い、「目標達成プラン」を作成した
		<input type="radio"/>	② 「目標達成プラン」を利用者、利用者家族や運営推進会議へ説明し、協力やモニター依頼した（する）
		<input type="radio"/>	③ 「目標達成プラン」を市町へ説明し提出した（する）
		<input type="radio"/>	④ 「目標達成プラン」に則り、目標を目指して取り組んだ（取り組む）
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他（ ）

2 目標達成計画

事業所グループホーム ハーモニー広島西

作成日 平成22年10月22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価をもとに職員一同で次のステップへ向けた取り組み目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎにならないよう、事業所の現状に合わせた取り組み課題を取り上げ、優先順位を決め目標達成に向けた具体的な取り組み内容を記入してください。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念について、より深く意識づけをする。	理念について全職員が意識して日々のケアを行うことができる	申し送り時の唱和 ミーティング時の話し合い	6ヶ月
2	35	ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞの早期設置	ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞの早期設置	現在社内で検討中	H23.3までに設置予定
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。